

8月の児造研 「つつんだかたち」5年生実践レポート

①教室バージョン

- ・机や椅子、ランドセル、ほうきなど、教室にあるものを包む。
- ・単体でもいいし、組み合わせてもいい。組み合わせる場合、動かないように養生テープで固定する。危険のない範囲で積み重ねてもよい。
- ・数人で協力してストレッチフィルムで包んでいく。
- ・中に入ったり、絵を描いたり、デコレーションしたりする子もいた。
- ・机や椅子などを組み合わせるだけでも十分楽しく、面白い形状になった。ただ、包むもののバリエーションが多いとどうなるかと思い、次は体育館で行うことにした。



②体育館バージョン

- ・活動内容は同じに体育館で行った。
- ・一輪車を包んで導入をしたが、結局子どもはボールや跳び箱など、包んでもあまり形状の変わらなそうなものを多く選んだ。
- ・ねぶたの山車みたいに跳び箱に色々付けて練り歩くことが流行った。
- ・体育館だと広い空間やボール、台車など楽しい誘惑が強く、包んだ形状よりもアクティブな魅力が勝ったと思われる。体育館ではカラーのストレッチフィルムをあまり使わなかったことから、包んだ感じより、ボールや跳び箱で遊ぶことに意識が向かっていたことがうかがえる。形状に注目してほしいなら透明よりカラーの方が中が見えづらく、包んで変化した形状を意識しやすいかと思った。



③教室、多様な梱包材バージョン

- ・ストレッチフィルムだけでなく、梱包材の種類もいくつか用意してもよいかもと思ったのでエアキャップ、ボーマグスパー、ペーパークッションを増やしてやってみた。
- ・多様な梱包材があったが、包みやすいストレッチフィルムがメインでほかはおまけのような感じだった。
- ・ペーパークッションをストレッチフィルムで包んでクッションにしたり、エアキャップを下に敷いて快適マットにしたりと工作や家づくりのような使い方が多かった。
- ・多様な種類は子どもにとって持て余している感じがし、ストレッチフィルムだけでもよいなと感じた。



〈コベツサイテキへの道〉

- ・はじめはストレッチフィルムでの空間づくりと使用后材料でのクッションづくりの提案だったが、ストレッチフィルムの扱いづらさとクッションづくりの結局みんな同じものになってしまう感から、“何をつつみたいかをそれぞれ考えることがコベツサイテキとなるのでは”ということで「つつんだかたち」となった。
- ・“教室にあるものを組み合わせて包んでみるとどうなるか”ということで①を行った。とても楽しく、つつんだかたちの面白さを存分に味わえた。しかし、中身や梱包材のバリエーションを増やした方がよりコベツサイテキになるのではと思い、②、③を行ってみた。
- ・②では中身のバリエーションを増やしたが、ボールや跳び箱というものの魅力と体育館という広さの魅力があって、包むこと自体は二の次になってしまった感じがあった。
- ・③は梱包材のバリエーションを増やしたが、工作や空間づくりっぽくなったり、扱いに困ったりと、包んだ形状を楽しむ以外の要素が増えたように思われた。
- ・結局実践の感じから①が一番授業のねらいにそった形となった。コベツサイテキは個々に合わせて学習環境を整備していくことが大切だが、材料や用具のバリエーションをただ増やせばよいというわけではない。授業のねらいに対して、子どもが最適に反応できる環境を考えていくことが大切であり、そのねらい自体も個別に対応し得る土壌が備わっていることが大切であると感じた。また、子どもの実態に合わせて考えていくことも必要であり、今回は①が適切であったが、体育館の誘惑にのせられない学級なら②が適切な場合もある。③は実態に関係なく、いまいちだったかなと思う。そのように、題材の特性と子どもの実態を考え合わせ、子どもが能動的に最適化したいと思えるような授業構成をしていくこと（つまり今までと変わらずなことだが）が図工のコベツサイテキとしては有効だと感じた。
- ・以上をふまえて8月の児造研では、教室やランチルームなど、机や椅子などがたくさんある場所に一輪車や竹馬など中身のバリエーションをいくつか運び入れ、ストレッチフィルムで包んでいくことがよいかと思う。